

湘南の歴史街道を行く ⑤「田村通り大山道」解説

池内・今井・岡村・小林・阪本・露木・弥勒寺

大山は雨降山、阿夫利山ともよばれ、関八州鎮の霊山で、東の筑波山と並んで古来から崇められてきた。頂上には土器類が出土している。

標高1,251.7m、相模湾、江戸湾からも良く見え、船舶の目印として重要視されて来た。江戸時代末期の天保12年(1841)に編纂された「新編相模国風土記稿」(巻51 村里部大住郡巻10)には“頂上は常に雲霧深く、ややもすれば大いに雲起り、忽ち雨を降らす。この雨は山中のみにして他に及ばず、故に土人私雨と称す。雨降山の名は是に因るか”と記述されている。また阿夫利は、アイヌ語の「アヌプリ」(偉大なる山)から転訛している、とも言われる。現在の「大山」と言う山名は、頂上に「大山祇神」を祀る事から名付けられた。

天平勝宝七年(755)東大寺別当良弁僧正が開山し、頂上の石尊権現と中腹の大山寺を中心に真言密教の修験道場となった。山開きは、旧暦7月27日から8月17日迄で、特に8月13日から17日までは大いに賑わった。

鎌倉時代に入ると、源頼朝は太刀を石尊権現に収め、戦勝祈願のため、大山にたびたび参詣している。吾妻鏡(鎌倉幕府の公式記録)をみると、建久三年北条政子が実朝の安産祈願をしている。

“建久三年八月五日(1192)巳酉天晴れ風静かなり、早旦以降御台所御産気の気あり、御加持は宮法眼、験者は義慶坊、大学房等なり。

鶴岡・相模國神社、仏寺に神馬を奉り誦經(ずきょう=儒教の經典を読むこと)を修せられる。梶原景時、三浦義村等奉行たり。巳の刻男子(実朝)御産なり。「千萬君」と云々”(加持の寺は大山寺等26社の名が連ねられている)

江戸時代、元禄の世となれば戦乱も収まり、庶民は物見遊山に出掛ける余裕が出て来た。その格好の場所として「大山詣」がもてはやされた。遠くは信濃、越後、遠江國等16か国に及ぶ。

旧暦7月27日から8月17日迄を夏山祭りと称し、江戸日本橋小伝馬町の「お花講」の人達が、頂上に向かう門の鍵を開けた。現在でも阿夫利神社から頂上に向かう入口の門柱には「お花講」と刻印され、半開されている扉を潜って頂上に向かっている。

最盛期の宝暦年間(1750~1763)には年間20万人が参詣していると云う。明治20年では信徒およそ年間5万人が登拝している(「相模大山街道」大山阿夫利神社刊による)

西へ向かう関東地方の道は、殆どが大山に通ずると言ってもよい程、大山に向けて道が繋がっている。江戸からは「青山通り(矢倉沢往還)大山道」、東海道から「柏尾通り大山道」、小田原から「六本松通り大山道」、甲州から「津久井大山道」等たくさんある。

今回は藤沢から大山に向かう「田村通り大山道」を取り上げる。この道は大山道の中でも、最も多くの参詣者が通った道で、大山から伊勢原に出て、田村の渡して相模川を越え、寒川から辻堂の四谷の交差点に出て藤沢宿に入る。藤沢宿で精進落としを盛大に行い、翌日は江の島弁天にお参りして、鎌倉から金沢の六浦湊に出て、船で江戸に戻ったと云う。(落語大山詣)今回は逆コースを辿って伊勢原に向かう。

出発は辻堂土打公園です。県道に出て、国道一号線(東海道)の羽鳥交番前の信号を右折、100m程で不動堂に収まる大山道の道標を見て出立としよう。

お堂の中には大山道と太く刻まれた道標の上に、目に水晶が埋め込まれた不動尊像が座っている。延宝四年(1676)江戸横山町の講中が寄進したものだ。

お堂を過ぎるとすぐ、大きな石鳥居を潜る。万治四年(1661)に建てられたが、たびたび倒壊して建て直されている。このわずかな距離の道が、昔からの大山道だと言う。大庭に向かう県道を横切るとすぐ、小さな祠に収まった道祖神を見ながら西へ向かう。

新湘南バイパス高速道路沿いに城南、小和田、室田、高田と歩いて行くと、道に面して「熊野神社」にぶつかる。この高田一帯は、名奉行大岡越前守で有名な旗本大岡家の知行地である。

慶長八年(1603)大岡忠吉が家康公よりこの地を賜り、明治になるまで大岡家の知行地となった。神社は大岡家が熊野本宮大社から勧請して建てたもの。大岡越前の墓はここから北へ1.5km浄見寺にある。墓碑には御奏者番、寺社奉行と記されている。

新湘南バイパスを潜り、相模線の鉄道を越え、小出川を大曲橋で渡り大曲、一宮に入ると、景観寺のお寺の前に出る。ここがゴールの寒川駅に向かう①(Sコース)と②(Lコース)の分岐となる。角にはコンビニがあるから、水やお弁当を購入できる。一宮二丁目には源頼朝御家人の一人「梶原景時の館跡」が見えて来る。石橋山の戦いで頼朝を助け、御家人となった。しかし讒言が多く、家臣達から嫌われた。

やがて相模川の堤防が見えて来る、道が大きく曲がる角が「田村の渡し」跡である。ここには「一宮不動堂」と名付けられた小さな祠と、大山道の道標が自然石に刻まれている。相模川を神川橋で渡る。橋上から大山が一段と大きく見え、伊勢原の懐に近づいた感じがする。

橋を渡ると「田村の渡し」の碑と説明板が置かれているので、一読してから八坂神社に向かう、トイレ休憩を兼ねて一呼吸入れたい。

県道44号線を西に辿る。旧田村交差点は昔の交通の要衝で、南北には平塚から八王子まで41kmの八王子道が交差する。永禄四年(1561)上杉輝虎小田原に発向、永禄12年武田信玄小田原へ軍を進める、天正18年(1590)太閤秀吉奥州帰陣の時当所を過ぎる(新編相模国風土記稿)。ここに十王堂があったが、撤去されて今は無い、大山道の道しるべたちが往古を物語っている。

ここから先車が行き来してうるさいが、道の両側は田圃で、早苗の植わった水面が素敵、富士山と大山を正面に見据えて西に向かう。

小田原厚木道路(高速)を側道で跨ぐと、平塚市から伊勢原市に入る。上平間、沼目、桜台は町中の道。沼目の曲がり角に素敵な道標がある。不動明王が道標に乗った道しるべで、「右日向、左大山」と読める。元文四年(1739)粕谷荘沼目村で建てたもの。

忠実に大山道を辿ると、沼目の尾根から桜台の谷に下り、また桜台三丁目の台地の上って信号を右折、500m程で小田急伊勢原駅にぶつかる。小田急線が開通していない時は、直接駅前の銅の鳥居を潜って大山に向かった。今日は伊勢原駅がゴールです。